



蓬萊町だより

第二十三号
元成平 年12月10日
者者者 蓬萊町 文 化 部
編集者 文 化 部

蓬萊町界限(その二十)

書生の宿・下宿屋(Ⅲ)

林 順 信

◆東京への集中化は八十余年も前から……

来年平成二年(一九九〇年)は、江戸に幕府開いた徳川家康が、小田原北条を秀吉と共に滅しての直後、江戸に入府して以来、四百年に当たる、天正十八年(一五九〇年)八月一日と伝えられ、家康以下家臣一隊は、白装束に身を包み慎しんで江戸の土地を踏んだ。この八月一日ことを「八朔白無垢(はっさくしろむく)」といって花魁(おいらん)が白装束で祝うしきたりになっていた。

(1) それから四世紀、江戸から東京へと開発に次ぐ開発でメガロポリス東京などおだてられるマンモス都市になってしまった。蓬萊町の空のように広々として秋の雲が漂う町というのも貴重な空間とはなった。本郷追分の文京学園や千駄木の日本医大などが、学校法人というかくれ

裏があるので、せつせと土地を拡げ高層ビルをおっ立てているので、町内の空が狭くなっている。そのうち空気を吸うのにも税金とやらが掛かって来るかも知れない……と思うと息を吸う力も衰えて来たみたいだ。

閑話休題、話を本筋に戻すと、家康以来天下の覇府江戸、明治ご一新からの帝都東京へは何が何でも上って来なけりゃという風潮が百年も前からあり、現在でも益々中央集権化の志向は一つも弱まっていない。

明治四十年(一九〇七年)の「学府の東京」という本の序論はいう。

「誰も言うやうに東京は學術の中心、學者の淵藪(えんそう)なり。學問に出るとさへ云へば、直ぐ東京を連想せしむ。上は大學より下は中小學まで、各種それぞれの學校一として備はらぬは無し。學生の数は十萬を超え、學校の数は百を以て數ふ可し。碩學大家と云はるる博士學士も皆此地に居る。図書館もあり、博物館もあり多くの新聞雜誌も出れば、書物屋の数も非常に多し。要するに東京の半面は學問の都會なり。此現象は大坂にも神戸にも横浜にも見出されぬことにて、独り東京の特色なり」とあるから、今から八十二年も前から、笑を負うて東京に学ぶ若者は跡を絶たなかった。

かの正岡子規が若い時分、ほんの一時本郷追分町三十番地に下宿していたらしいが、今とな

っては店名もなにもわかっていない。それ程に下宿屋の記録が乏しいことだろう。

◆朝晩二食にお炭つき、掃除つき

戦前の下宿屋は、昔はみなそういう建て方が多かったのだろうが、真中に中庭を設けて、大低の場合はひょうたん池などがあり、植木もそうそう植えられていて、建物は四角い廻廊がめぐって、庭に面した四方は下宿屋の客間があった。

下宿屋は大抵は木造二階であったが、この前に書いたように、たまには三階建てもあった。三階建ての場合は部屋数は七十を超えるが、二階建ての場合はせいぜい三十室くらいだった。大きな玄関には右手に下駄箱、左手に帳場があり、正面には二階へ上る階段がでんと構えている。客の部屋以外には、台所として十畳十二畳、女中部屋が六畳くらい、食事をとる大きな畳敷きの部屋が一つ、それに洗面所の長いやつと、便所は大が三か所、小が二か所くらいのがあった。当時は今日みたいに水洗式ではなく汲みとり式だったから、ナフタリン臭かった。

部屋は二階の方が一階より高く、陽あたりがいい南や東に面した方が部屋代は高かった。広さは四・五畳と六畳がほとんどだった。昭和十年すぎには、賄二食つきで一か月、上等の部屋代が二十七、八円で、並等の部屋代が十七、八

円と十円のひらきがあった。当時大学を出た学生様の初任給が約五十円ならよい方だった。二十八年なら、月給の半分以上だから、現在で換算すると、約八・九万円の部屋代だから、蓬萊町界隈の不動産屋のマンション・ワンルームの家賃とおっつかっつであるう。だから、地方から笈を負うて大学に学ぶということは大変なことであった。私の親父が大学に入った時は、大正のごく初期で、人口千五百人に一人という率であった。明治時代でいえば、極論式に言うところ「大学を出た者がごとく成功した」といっても過言ではなかった。現在でいうなら大学を出ないで渡世ができたなら、その方が優れているとも言えるだろう。

当時の下宿屋の主人やお上から嫌われた職業は新聞記者と弁護士の一つだった。

戦前の下宿屋は木造の日本家屋だったから、廊下と部屋の仕切りは、ふすま一枚で、もちろん鍵などある筈はなかった。中庭に面した方は硝子戸と障子だった。

下宿屋には部屋数に応じて女中（現在はお手伝いさん）が三人から五人もいた。女中は大抵秋田・山形・茨城・栃木など、農村地帯の娘で、昔は貧農の子沢山という日本の典型的な庶民の暮らしの中から、親に仕送りする形で、差配という、大抵は年老いたおじいさん達に連れられて来た人達で占められていた。年の頃なら十六

から二十というところだった。彼女たちは和服がほとんどで、洋装の女中は数少なかった。

（以下次号へ）

納涼盆踊り大会を終えて

竹中 俊之

台風の影響かザーザーザーと云う雨音で目が覚めた。外を見るとまだ薄暗く、車が水しぶきを上げて走っている。ふと時計を見るとまだ六時ではないか、今日八月二十七日は「納涼盆踊り」の日である。集合時間の九時迄まだ三時間程ある。なんとか晴れてくれ……という願いも空しく時は過ぎてゆく。九時少し前に集合場所である海蔵寺に行く。まだまだ、雨は降り続けている。九時を少し過ぎた頃から部員がポツポツと集まってくる。何としても、日曜口である今日中に「ヤグラ」を組まなくてはならない。明日ではとても間に合わぬと云う事で、決行する。大型の車に資材を積み込みを始める。その頃にはもう十二、三人の数の部員が集まりつゝあった。さすがに青年部の結束力は大したもののだと思った。

海蔵寺から大観音へと資材を運び、いざ「ヤグラ」を組もうとするが、生憎足下は昨夜からの雨で泥だらけである。頭上からは容赦なく雨が降り続くそんな中を、本体を組み、又回りを組む。時折小雨になる時もあり、その時には

「それっ!!」とばかりに仕事に熱が入る、又ザー、と降って来る。合羽を通して雨が身体の中に入り込み又長靴も中は雨水でビチャビチャとなる。約四時間位かゝり一時頃、全体を組み上げて、ホッと一息ついた。

中食を終えて一寸晴れ間が見えて来た時に又少し仕事をする。今日は一体どうしようか？やるべきかやめるべきか？いよいよ風が強くなって来た。……夕方四時本日の中止を決定した。何んとか明日は、晴れてくれと祈る気持であった。翌二十八日は大分風は強かったが、快晴である。朝六時に大観音へ集合して昨日の続きをする。全く次から次へと色々な用事があるものである。テントを張りアーチを作り提灯を下げ、売店やゲームの準備をする。何んとか九時頃に終え、あとは無事開催するのを待つばかりである。

夕方六時まずまずの天候である。これなら出来るかな？と思いつゝ売店やゲームの品物を揃えいざ七時音楽が始まると同時に雨がザーと来る。あたふたとテントの下に集まり、雨宿り、全くこの時には、参ってしまった。しかし上空を見ると、雲が強い風の流れ時折切れているので「よしこれなら大丈夫出来る」と確信した。うまく三十分位したら雨も上がり、何んとか踊れる状態になったので開催を強行した。こゝまで来て又中止では、皆の努力も水の泡となって

しまう。翌日の八月二十九日は台風もそれ、踊りやゲーム・売店の方も順調に行く。夜全員にて打ち上げの時は、まア無事に終了する事が出来てホッとしたと云うところだ。私は、この行事で何か一つの事を皆で力を合わせて、なしとげると云う協力の素晴らしさと云うものを感じ、又各々仕事があり乍ら精一杯この行事に力を貸してくれた、青年部員一人一人に心から感謝をしたい。ア・リ・ガ・ト・ウ と……。

計 報

当町会にお住まいの方で、7月から11月中旬までの間に逝去された方々のお名前は左記のとおりでございます。

謹んでお悔やみを申し上げ、ご冥福をお祈り致しております。

小泉ちか様 島田和一様 若林ふく様

阿部良雄様

町会活動の概要

平成元年7月から11月中旬まで

総 務 部

(3) 7月31日 伊勢神宮遷宮に伴う賛助金の募金につ

つきましては、多数の方々のご賛同を戴きまして誠にありがとうございました。左記の金川を根津神社を通じて伊勢神宮に収めました。

一金 三二二、三〇〇円

9月12日 年末までの祝日における「ゴミ」の収集日についてのお知らせ各家庭に配布いたしました。

「お願い」

収集日以外の日に「ゴミ」を出す方がどこの収集場所にもあるようですが、このような行為は町的美観を損なうだけでは無く、近隣の方々の迷惑は勿論のこと、衛生保持、火災予防の見地からも好ましくありません。このような行為を見掛けた時は注意をして戴き、秩序ある町づくりにご協力下さい。

10月9日 区長と区民との対話集会

特別区制度の改革問題、地下鉄駅前への自転車放置問題など区民の日常生活に関係する身近の事柄について、区長と対話が行われました。このような区民の声が区政に生かされることと思えます。

10月26日 地下鉄工事説明会

駒本小学校講堂に於いて

今回の説明会において、次表の工事工程予定表が示されましたので、掲載いたしました。ご参照下さい。

7号線本駒込駅土木工事予定工程表

工 種	平成元年				平成2年				平成3年				平成4年								
	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5
準備工	11/上旬				4/上旬																
杭打工					4/上旬				9/上旬												
路面覆工									9/上旬10/中旬												
掘削・土留工事									10/中旬				3/中旬								
構 築									1/上旬				11/中旬								
埋戻し・復旧													11/下旬 平成予定5/25								

交 通 部

9月8日 「秋の交通安全運動」の推進について、理事会開催

9月20～30日 「秋の全国交通安全運動」実施
当町会では交通安全運動に協賛し、交通役員、婦人部、友の会の皆さんが連日街頭において

交通安全のピーアールを努めていただきました。幸いにして当町内においては大きな交通事故はありません。事故を未然に防ぐのは「あなた」です。車両も歩行する人も無理をせず、安全を確認して行動する事が第一の必須要件、交通事故絶無の町づくりにご協力下さい。

防火防災部

8月18日「夜間における防災訓練」が行われました。

文京区役所、本郷消防署、共催

場所・文京六中校庭 時間・午後7時から午後9時30分まで

このように公共機関において実施される行事については、広く町内の皆さんに参加して戴く事が重要です。

この度も回覧によって皆さんにお知らせをしましたが残念ながら少数の方々のご参加があっただけでした。災害はいつ起きるか分かりません。不時に備えるためにも初期消火等の予備知識を習得するため進んで参加される事をお勧め致します。

10月29日 本郷消防団の合同点検訓練、見学。

婦人部

9月4日 「敬老の日」恒例行事 はげの天ぶ

ら会

婦人部員が接待の手伝いに参加致しました。

9月15日 当町会より「敬老の日」の祝品を贈呈

本年は当町会員のご家庭で、77歳・80歳・88

歳のお誕生日を迎えられた方並びに90歳以上

のお歳の方々にお祝い品をお贈り致しました。

(該当者数 28名)

誠におめでとうございます。これからも益々

健勝にて楽しい日々をお過ごし下さるよう祈

念申し上げます。

10月1日 共同募金の募金額について

毎度町内の皆様方のご厚志によりまして左記

の金円が集まりました。ご協力誠にありがとうございます。

一金 一五五、六〇二円

お願い 町会ではかねてより廃品のリサイクル運

動を行っております。この運動は日々が増え

てゆく「ゴミ」の減量を図って行くと共に更に

進めてリサイクル出来るゴミを寄り分け、大切

な資源として再利用して行く事業であります。

また、再利用によって得る金円は、蓄積し定

額の金額に成った時に義援金として寄付を致し

ております。どうぞ運動の趣旨をご理解戴き

より一層のご協力をお願い致します。

青年部

7月23日 工作教室を開きました。

夏休み中の行事として、町内の子供さんを対

象に工作の教室を行いました。当日は大勢の

子供さんが参加し、慣れぬ手つきで一生涯命

に独創性のある作品作りに頑張ってくれまし

た。また、来年もたくさん参加して下さい。

8月28・29日 盆踊り大会開催

今年是不安定な天候に悩まされ、27日からの

予定が1日日延べになりましたが、28・29日

の両日に開催することができました。

夏の一夜の楽しい思い出として、大勢の皆さん

のご参加を戴きましてありがとうございます。

青年部員一同張り切って企画致しまし

たが如何だったでしょうか。これからも町内に

役立つ事をどんどん企画し、実行して行きた

いと思っております。

編集部

早くも師走を迎え平成元年も無事平穩のうち

に終わり、新たな年を迎える事になります。

年も押しせまってまいりますと、どちらのご

家庭でも何かとお忙しい時期でございますが、

健康には十分に留意されて新たな年をお迎え

になられる様、町会役員一同祈念申し上げます。

編集委員

小林 音吉、竹中 一馬、高橋 一郎、

猪熊 良晃、池田 暉